

第4回 中心市街地賑わい再生社会実験専門部会 議事録

- 日 時：2015年5月26日（火） 14:00～15:30
- 場 所：松山アーバンデザインセンター1階
- 出席者：10名

次第

1. 開会
2. 挨拶
3. 委員紹介

【事務局】

(挨拶、配布資料の確認、代理出席等委員紹介)

4. 議事

【委員A】

本日の議題は、前回同様アンケート調査等の結果を中心に整理しているので、事務局から説明いただきたい。

(1) 前回意見の概要

(2) ひろば・多目的スペースの利用状況

【事務局】

(資料説明 P.1-1～2-5)

【委員B】

常駐の先生からいつも見守っている立場として、この数字についてご意見を伺いたい。

【委員C】

占用件数の実績に関しては、正式な申請使用以外にも、申請無しで自然に集まり、打ち合わせしているような利用も増えてきている。

【委員D】

正規の利用以外の実績を計測するよい方法があれば伺いたい。

【委員E】

例えば、この時間に本を読んでいる人が何人いたとか、観察して記録するという方法もある。

【委員F】

「何故ここを使うようになったのか」、「何故ここが良いと思って利用しているのか」、「利用後

どこに行くのか」などの声を集めることで、この空間の質的な意味や価値が出てくる可能性もある。

【委員G】

ビジネスマンが仕事に使うケースや、読書や休憩など、利用の目的をデータとして蓄積しておく必要がある。さらに、満足度調査のように要望なども把握すると利用の多様性が一層生まれてくる。

【委員H】

利用者が増えると、更なる展開や問題の改善の必要性が生まれる。次のステップとして、それらを踏まえた改善点や規模についての問題、または、ここに現れない活動を更によく取り取るような施設の再設計が必要となる。

【委員I】

まちなかの施設としては、週末、休日の利用者は群を抜いて伸びている。子供たちがいるのはまちのイメージとしても非常に良い。

一方、商店街もこの場所も平日と週末の伸びが同じぐらいの差である。ここに来る人たちが平日に利用する目的、まちに来る理由をもっと作る段階に来ている。例えば学生やビジネスマンの人がまちに来る理由は、「便利」や「楽しみがある」というのも良い。これからは、関連したプログラムや事業などの連携の要望も増えてくると思う。

一方で、人が増えた時のリスクもあり、これから仕組みが大きく膨らんだ際のサポートを考えていければ、より大きな容量をちゃんと受け入れられるような態勢が出来てくる。

【委員J】

「みんなのひろば」のブランドイメージを考えたとき、広げていく際のリスク管理が重要となる。

平日と土日の伸びが商店街の比率と同じということは、本当の意味でまちなかを変えるところまではいってないのかもしれない。そのために何が必要なのかということは、次の半年の非常に重要な課題である。

(3) ひろば・多目的スペースの周辺地域の環境変化

【事務局】

(資料説明 P.3-1～3-2)

【委員K】

まずは、環境の変化についてご意見を伺いたい。

【委員L】

地元としては、ひろばの認知度はあるが、アーバンデザインセンターの認識は低いと感じている。ひろばがあることで、地域に良い影響があるかということ、そのような認識も強くない。

現時点でまちの販促活動やブランドなどのコミュニケーションが無い。商店街の店主としては、出来て良いとか、悪いとかいう認識でなく、「あ、できたんだな」というぐらいの認識しかない。

人通りも、明らかに増えたという認識も無いというのが正直なところ。

【委員M】

今のお話は非常に重要である。広報費用はどの程度使っているのか。

【事務局】

広報費用はこの社会実験の委託業務の中で確保されている。

【委員N】

メディアへの広報費用はどの程度か。

【事務局】

「広報まつやま」に掲載した程度である。

オープン時から、トップギアでスタートするか、草の根でじわじわ広げるかという議論もあったと思うが、じわじわ広げてやってきた。

【委員O】

そろそろもう一段やるのか、やらないのか判断のしどころに来ている。

UDCMがラジオなど独自にやってもらっているようだが、そのあたりはどうか。

【委員P】

ラジオは厚意に甘えて、無料でやらせてもらっている。新聞連載は5月まで行っていたが、今は予算をかけてメディアへの広報はしていない。

【委員Q】

商店街・まちなかの地図の中に「みんなのひろば」が“ドン”とあるというような広報で、「商店街はこんな形で、こんな楽しみ方がある」という風にしないとイメージは変わらない。そのあたりまでイメージして、ブランドや規模をどうするとか、今後の展開を考え始める時期になっている。

【委員R】

土日などの休日の利用時間はどうなったのか。

また、土曜夜市の際に、ひろばがたまり場になったり、ごみが捨てられたり、様々な問題が懸念されるため、ここでも注意活動をしてもらいたい。

認知が広まれば、人が集まってくる可能性もあるため、防犯の関係からも対応が重要である。

【事務局】

夜市では、通常のスタッフに加え、市の職員を配置する予定。

【委員S】

管理について言えば、例えばイベントや遍路道の掃除などは、若い人の力が集まり、組織が出来やすい。

土曜夜市は、ポジティブな面もあるが、治安とかごみとかいう問題でこの場所がネガティブなところに対応するプラットフォームになる活動があるとよい。

我々がイベントを積極的にやるというよりは、ここをサポートするところに使ってもらってはどうか。

(4) ひろば・多目的スペースの管理・運営

【事務局】

(資料説明 P.4-1~4-3)

【委員T】

土曜夜市や休日の時間延長について、常駐の先生にご意見を伺いたい。

【委員U】

例えば、周辺店舗の方に協力してもらう方法も考えられる。公園を閉めるのはコーンを並べるぐらいなので、地域に協力していただければもっと使いやすい公園になると思う。

【委員V】

今は、社会実験の委託業務内で管理を行っているが、社会実験終了後、誰がどう管理していくのかについて、地域でやってもらえることが望ましいということか。

【委員W】

まだ、お話を伺ったわけではないが、近隣の店舗は、18時でひろばを閉めるとき、店舗のお客さんにひろばから出ていただく形になっているので、もう少し開けておいて欲しいと思っているのではないかと思う。

【事務局】

お正月に近隣店舗に手伝ってもらったことがある。そのように、地元の方にもじわじわ広がっていくのも重要である。

【委員X】

社会実験期間が終わると、そのケアをしてくれる方をどうするのかということを決めないといけない。それは、土曜夜市などで、何か試しながらみたいな方が良い。

あと、防犯の問題への対応など、コストが掛かってくることもあり、どのように対応するかを考えることも必要。

【委員Y】

周辺路地裏マップの作成について、具体的に伺いたい。

【事務局】

学生スタッフの方を中心に企画し、店舗の方にアンケートを協力してもらっている。

【委員Z】

一軒一軒、飛び込みでインタビューを行っている。お店がいつ頃からここに構えられて、お勧めのメニューは何かなど。

【委員AA】

現在、歴史を紐解いて、通りに名前をつけようという運動をやろうとしている。それとタイアップして、色々教えていただきたいと思う。

【委員BA】

歴史のデータがあって、そこに今のお店の情報とかもうまく入ったマップが出来ると、結構よさそうな感じがする。

【事務局】

実は、商店街の北側の通りの事業所の方が、この通りに名前をつけたいという意向がある。

【委員CA】

市の方で、道の管理に対してネーミングライツを与える制度を行っているが、道の単位はどれぐらいか。

【事務局】

基本的には、歩道があって、安全に清掃活動ができる道路が対象である。

【委員DA】

その通りにも名前をつけていいのか。

【事務局】

「マイロード」制度は、歩道付きの道路が対象で、清掃活動をしたら名前をつける権利がある制

度であったと思う。

【委員EA】

松大・愛大の前の道路を松大の方が掃除して名前がつけられているはずである。店舗の方と連携すると、輪が広がり、コミュニティーになってくるので、今、制度がないとしても、適用できる制度を作ると良い。

ただ、まちなかは碁盤の目のようでポイントが分かりにくい。だから細かな通りにも際立つような名前がついてくると個性が出てきたりするので良い。

アーバンデザインセンターでも歴史を調査していると思うことがあると思う。それをうまくアーバンデザインセンターの仕組みにして、ある一定の活動に対してネーミングの権利と管理組織のようなものをアーバンデザインセンターで少し束ねられるという形が作れなくはないかと思う。

【事務局】

「まつやまマイロード」には、「ロードサポーター」という制度と「プチサポーター」という制度があり、参加要件は、「ロードサポーター」は、清掃美化活動参加者が15名以上、活動区間は100m以上。「プチサポーター」は、清掃美化活動参加者が2名以上、活動区間は100メートル未満で、「緑地帯を含む」となっており、市道であればというものである。

【委員FA】

そのように連携して、少しずつ広げて、通りに名前がついたらおもしろい。ただし、歴史に基づいていないと定着しないため、歴史にも基づかせる必要がある。

【委員GA】

歴史に根差すとともに、作り上げていくまちのイメージの両方がうまく合致しないと、若い人にも受け入れられない可能性もある。アーバンデザインセンターが調べられているような話と歴史をどうコーディネートするのかというのは重要である。そこは、プロも入りながら、町場の人の力も借りながらやらないと出来ないと思う。

ほかに意見があれば伺いたい。

【委員HA】

婚活イベントは、公認機関主催以外のイベントは許可しない方針だが、例えばキャンドルライトや地域の人たち行う納涼流しそうめんなど、婚活以外の企画に関してはどういう棲み分けになるのか。

【事務局】

今回の婚活イベントは、企画内容の詳細が不明であったので、許可しない方針とした。

【委員IA】

婚活はなぜだめなのか。

【委員JA】

今回の申請に関しては、公益性がないためである。婚活イベント自体は良いが、申請内容をはっきり書いていなかったというのと、同じ申請者の方の実績が過去何回かそういう申請をして結局実現しなかったため、不許可とした。

【委員KA】

室内での行事に関しては、基本的には金銭の授受は禁止ということだが、外でフリーマーケットをする場合、事業主体がしっかりしていて、公益性があれば、構わないのか。

【事務局】

運営委員会で審査するが案件であるが、公益性があり、企画が整理されていれば、許可される可能性がある。

【委員LA】

あまり「パブリック」と言うと運営コストが高くなるので、少しでも営利に使っていただけるというのは、そんなに悪いことではないと思う。

このあたりの意見をお伺いしたい。

【委員MA】

これも基本的には公益というところで、商店街全体が盛り上がるようなものを見据えた営利活動であればいいという議論は出ている。

ただ、資料に示している問い合わせの案件については、個展であり、個人の儲けになるような話で、この場で金銭の授受をやるのかどうかというような話が出てきたと記憶している。

【委員NA】

場所の使用料を徴収していれば、営利な活動をしてもいいというのはよくあるが、無料で貸した場所で個人事業を行って、お金のやりとりをさせるのかという意見もある。

【委員OA】

次のステップとして、ここの場所でお金を取るかという話になる。それは、町場の方の意見としては、お金を取ったほうがいいのではないかということか。

【委員PA】

色々なケースがある。

【委員QA】

この施設では、施設を借りているお金など、管理費が掛かっているため、現実的にはそういうやり方が出てきた方がよいと考える。

後は、教育の場として、あまり商売色を出すと大学の側は学生の指導上、「それも教育だよ」と言う人がいるかもしれないし、「ちょっと微妙だね」と思う人もいるかもしれない。

パブリックなものは無料にするとか、収益が上がるものについては入場料を取ったりするとかいうことは、次に考えなければいけない。

収益性・集客性がある活動に使うって欲しいという思いもあり、賑わいも創出され、収益性があり、運営費も持続的な形になるというところもある。土曜夜市のときは、ここを一般に貸し出したりするのか。

【事務局】

夜市の昼の時間帯に施設と広場を使った事務局主催のイベントを考えているが、夕方以降は、基本的に一般開放として、貸出は行わない予定。

【委員RA】

地元の意見をお伺いしたい。

【委員SA】

大街道で物産展のようなことをやっているのだから、他と競合しなければ構わないと思う。例えば、ここで店舗を出してきた時に、まちなかでも同じような業種があれば、競合し、問題が出てくる。

【委員TA】

土曜夜市はものすごい人がいるイメージだが、それでも同業種は気にするのか。

【委員UA】

夜市の出店者とは問題になる場合がある。例えば、たこ焼き屋をやっている、こっちにもたこ焼き屋が出てくる、というのは、揉めることもある。

【委員VA】

出展者は、自分がこの場所で商売をやるということを主張してくる方もおり、昔から場所を決めて、その場所じゃないとだめだと言ってくる場合もある。

【事務局】

夜市のときは、ひろばについては13時から15時ぐらいで、内容が重複しないように、七夕のイベントや噴水を利用した納涼のイベントを考えている。15時以降は、基本的には一般開放とする。施設については、アーバンデザインスクールの中間発表のVTRを流したり、その他、別の企画がある。

【委員WA】

人が集まるタイミングなので、この空間を使ったプログラムを開発するには良い時期である。商店街の人も含めてAタイプ、Bタイプ、Cタイプではないが、計画的に土曜夜市の期間を使っ

て試したほうがよい。なにか良いアイデアはないか。

【委員XA】

土曜夜市はごみが凄いので、ごみの分別をわざとさせるように、ごみ分別プログラムみたいことをやらせたりするのもいいと思う。

その他、飲食イベントをするのであれば、商店街と連携してとか、夜市の企画と競合しないようにしないと、逆に御迷惑をおかけすることがある。

例えば、学生のプログラムで、子供たちが自由に遊べるのを作ったとしても、同じような企画を夜市の他の場所でもやっているとしたら、こっちは100円で、あっちは300円だったら、苦情等を言われる可能性もある。

【委員YA】

ただ、商売と掛け合わせたようなプログラムなどは、今までにないようなおもしろいものを考えてやる必要もある。

【委員ZA】

例えば、色々なシールを用意して、木の幹だけ置いて、そこにシールを貼って、夜市が終わるまでにすごい大きなツリーをつくりましょうとか、参加型であれば受け入れられやすい。

【委員AB】

この場所の目的を考えると、そういう方が良いかもしれない。みんなが来やすくなるので、アーバンデザインスクールとかの仕立ても少し何か工夫して、開いたようなものにするとうい。

あっちの外を使って報告会をやるとか、何かすごくいいチャンスだと思う。

【委員BB】

お金を稼ぐとか、最初の計画はなくなったのか。

【委員CB】

今は社会実験期間中なので、色々なことを試したほうがいいと思う。

【委員DB】

昔の遊びだけでいろいろ作るというものもある。ベーゴマとか、メンコとか、カルタとか、昔の遊び方を、子供がやったことのないゲームとかではない遊び方を有料でやるのもいいと思う。

【委員EB】

歴史みたいなものをやられている団体もあるので、何かそれを酌み取ったようなプログラムの方がいいのかもしれない。

【委員FB】

昔の遊びや動く遊びを一緒になってやり方を教えてもらうなどして。

【委員GB】

商店街の方も含めた形で、運用・管理等などについて議論すると次の仕組みにも発展する。

(5) 現状課題の整理と今後の進め方

【事務局】

(資料説明 P.5-1～5-2)

【委員HB】

今後の活動について、利用層の拡大、情報発信の仕方、活動チームのあり方、地元の方との連携についてご意見を伺いたい。

【委員IB】

ひろばの利用者は主婦と子供、多目的スペースは女子高生の利用がかなり多いが、受動的な利用が多い。そのような利用者にもまちづくりに関わってもらえると良い。例えば、主婦はいろいろなアイデアもあるはずなので、子供の子育てにまちづくりという展開も何かできないかなというのが一つ。

情報発信は、ラジオに取り組んでいるが、アーバンデザインセンターでやっている取り組みをアピールし切れていないような気がする。スクールの中間発表を動画で流し始めたが、センターで何をやっているのかわからないという人が圧倒的だと思う。

【委員JB】

後者の意見については、この場の概要説明のパネルがない。

TV モニターよりもっとデジタルサイネージの様なもので、据え置きタイプが良いかもしれない。動画・写真を学生に編集してもらうようなことを行っても良い。

人が集まることを生かすということに関しては、アンケートに答えてもらうなどはどうか。

【事務局】

アンケートは既に行っている。

【委員KB】

この場所に対するアンケートではなく、まちづくり全体に関しての意見をもらい、100 の声、200 の声、1000 の声みたいな形になれば、メディアにも扱われ、松山市の行政にも使えたりするという気がする。例えば、商店街の課題で気づいたこと言ってくださいと言うと、商店街の方にその情報をフィードバックできる。アーバンデザインセンター側の事業としてそういうことをやっていってもいいと思う。

【事務局】

二番町通り、JR、花園、道後の事業も動いているため、それらをポスター等で展示できるようにしたい。

【委員LB】

他都市のアーバンデザインセンターは、まちの模型を置いている。模型がないと決定的に弱いというのは事実であるが、このスペースが制約になっている。

【委員MB】

大街道の模型を置いておくと、確かに利用者の注目を引いていた。

【委員NB】

松山は平成の大改造に近いような事業を計画しているが、それが市民の方々には伝わっていない。アーバンデザインセンター側で模型を置いて、事業の説明をする拠点にすべきだと思う。

例えば、ボローニャのアーバンデザインセンターへ行くと、自転車が置いてあって、子供が乗ると前の画面が将来のまちで変化していくみたいな、何かひとひねりある。

ほかに気になる点があればお伺いしたい。

【委員OB】

利用者層が固定客化している。いつも利用している人にとってはいい空間になっていると思うが、そこから新顧客を引っ張ってくるのがうまくいっているのかなと思った。

【委員PB】

松山市としては、こういう場所を増やしていくみたいなことはあるのか。

【事務局】

施設を増やす際の目的やどういう成果を想定するかということを考える必要がある。

人材育成と情報発信と都市デザインのバランスで、どれに力を入れるかということもあると思う。単にイベントの場というだけでは出来ないし、まちづくりの場だけでも難しいと思う。

【委員QB】

半年間の活動を踏まえ、もう少し全体に広げた形でアーバンデザインセンターの次の構想をそろそろ考え始めたほうがよい。

今の段階では、委員の方々には積極的に「こんな使い方」「あんな使い方」という意見をもらった方がよい。また、管理についてのアイデアも必要である。今のやり方を続けるわけにはいかないと思う。

公園とセットでないやり方もあると思う。パブリックスペースと不動産の改良みたいなもの、もっと違う形もあると思う。

【委員RB】

どの方向に向かうのか、どういう受け皿になるのかなど、どうブランディングしていくかが重要。ハブとしては、情報の拠点というのは凄く良いと思うため、広報には力を入れるべきである。

【委員SB】

広報費用は出るのか。

【事務局】

大丈夫である。

【委員TB】

広報媒体を押さえるのがいいのか、それとも違うやり方がいいのかは難しい。

【委員UB】

主婦層や子供などに絞ってロコミのような、変わったやり方もおもしろいということか。

【委員VB】

例えばCDの棚をつくと音楽雑誌から取材が来たり、子供が休めるスペースをつくと子供雑誌から取り上げてもらったり、飲み物がちょっと変わったスタイルだったりするとか、カキ氷が有名だとか飯雑誌から取材が来たり、この場所自体がハブになって、そのフックがあれば、いろんなところからここに来てくれるとは思う。

【委員WB】

今は、そのフックがぼんやりしている。

【委員XB】

これから上に伸びていこうとしている形だと思うので、どうさせたいかというのをはっきりさせる必要がある。

【委員YB】

子育てに関しては、お手洗いや無料スペースがあることに、プラスアルファ何かがあると、フックになって、子育ての雑誌などから取材が来る。

【委員ZB】

公園はパブリックな空間なので、防災だったり、子育てだったり、それらには興味がなくともその場所に興味があり、そこへ行くことでそれらの情報を知ることができたということもある。

以前、紙のチラシを折り紙にして、バッグや紙飛行機を作るワークショップした際、おじいちゃんとおばあちゃんが物凄く来て勉強していた。「何でなんですか」と聞いたら、家に帰って孫に

教えてやりたいという方がおられ、思わぬ参加者が生まれるということもある。ここがそういうことのハブになればいいと思う。

(6) その他

【事務局】

(資料説明 P.6-1)

【委員AC】

昨年のフォーラムでは、建築家の青木淳さんを招いて、「坂の上の雲ミュージアム」で開催した。今回は、広げた形で、参加型ということ考えた方がよいと思う。委員の方々にも企画についてリードしていただき、フォーラムの一部をコーディネートしていただくようなことも含めて、秋頃に実施したい。

【委員BC】

コンパクトシティについては、どう考えたらよいのか。

【委員CC】

松山市の都市戦略において、人口が長期的に減少することとなっており、集約型の都市構造、コンパクトシティを進める中で、まちなかの施設を有効活用し、集まりやすい場所を再編集していくことが示されている。本社会実験もそのコンパクトシティの中で位置づけられる話である。

【委員DC】

大事なところなので、肝の部分を絶えず残しておく必要がある。

【事務局】

コンパクトシティでは、公共交通機関に加え、都市機能を集約させる都心部が重要となるため、本施設を充実させて、人が来やすいものにしていく必要がある。

【委員EC】

そういうのもデザインだと考える。

【委員FC】

アーバンデザインは、松山の将来像をどうデザインするのかという全体の議論の中で、まずはまちなかであったり、公共交通のハブであったりというところに広げていきたいということである。その他ご意見があれば、伺いたい。

(一同、意見なし)

【委員GC】

総括として、数字としては、関係者の各種の動きによって、相当いい数字が出てきているが、まだ、まちなかを変えていく程にはなっていない。

それは、具体的な数字で来訪が増えたかどうかという以外にも、土曜夜市の際に、掃除やモラルの改善、道のネーミングライツの取り組みも含め、ここが核になってどう涵養していくかが重要になってくる。

ただし、杓子定規では、全くおもしろくないので、楽しく、それがまた何か新しい動きに繋がるような形で考えていくようなことが重要である。

総括は以上で、事務局にお返しする。

【事務局】

先ほどのマイロード制度について追加で説明するが、要綱上の制度としては特に定めはないが、清掃活動を安全に行っていただくためという観点で、これまでの運用としては歩道のあるところの道路についてのサポーター制度、それに絡めてのネーミングライトみたいな形の運用をしている。

今後、これからやられるに当たっては、これまでの運用と違うことをしていくのであれば、そういう相談からのスタートになると思う。

5. 閉会

(閉会挨拶)

【事務局】

本日は、様々な課題があることを改めて認識した。利用者増に対する安全・リスク面の管理とか利用者層の拡大の話、広報の方向、施設の管理方法、それから土曜夜市のイベントなど、色々な課題がある。

今後も運営委員会等で更に協議を進め、中心市街地の賑わい活性化になればと考えている。御理解、御協力を改めてよろしくお願いしたい。

以上